

兵庫県立宝塚高等学校 第61回卒業証書授与式 式辞

厳しかった寒さもやわらぎ、桜のつぼみに春の訪れを感じる今日の佳き日に、ご来賓並びに保護者の皆様のご臨席を賜り、兵庫県立宝塚高等学校 第61回卒業証書授与式を挙げていただけますことは、私たち教職員にとりまして、この上ない喜びでございます。高いところからではございますが、ご臨席賜りました皆様方に厚くお礼申し上げます。

まずは、ただいま卒業証書を授与しました61回生の233名の皆さん、御卒業おめでとうございます。皆さんは本校における全課程を修了し、本日、晴れの卒業証書を手にするようになりました。教職員を代表してお祝いを申し上げます。

また、今日までお子さま方を物心両面から支え、励ましてこられた保護者の皆様、お子さま方のご卒業、誠におめでとうございます。御入学から本日までの間、本校の教育活動に御支援をいただき、心からお礼を申し上げますとともに、こうして卒業式を迎えることができましたのは、保護者の皆様の御理解と御協力の賜物と、深く感謝申し上げます。

これまでの18年間、皆さんは高校を選択するということはありませんでしたが、それでも敷かれたレールの上を歩いてきたにすぎません。高校を卒業すれば、レールがあるようでない人生に入っていくのです。一人一人違う自分の歩む道を自分で決めていくのです。高校を卒業する今日という日は、これまで育ててくださった親、助けてもらった家族、お世話になった先生や友人に感謝の気持ちを伝える一つの節目の日です。と同時に「これからは、自分で自分の人生を創っていくんだ」と、人生への責任を自覚する日でもあると思います。

京セラとKDDIという大企業の創業者である稲森和夫さんは、ある時「人生で一番大切なものは何だと感じられていますか？」と質問され、「やっぱり人生で一番大事なものというのは、1つは、どんな環境にあろうとも真面目に一生懸命生きること。それともう1つは、人間は常に「自分がよくなりたい」という思いを本能として持っていますけれども、やはり利他の心、皆を幸せにしてあげたいということ強く自分に意識して、それを心の中に描いて生きていくことです」と言われました。

「真面目に一生懸命に生きる」とは、誠実であり、何かに努力している状態ではないでしょうか。努力のあり方は、人それぞれです。高校時代には取り組まなかった英検に挑戦する、バイトをしてみる、ボランティア・・・自分がやってみようと思う事なら何でもいいと思います。努力ということ意識していなくとも、新しい一歩や小さな挑戦は一生懸命に生きていることだと思います。そして、将来がどんな環境でも、真面目に一生懸命であれば、仕事で苦手と思っていたことが、少しずつできるようになるものです。仮に、最初に選択した仕事が努力しても困難なものであったとしても、一生懸命に生きていれば、必ず別の道が開けるものです。

一方、真面目に一生懸命に生きていても、挫折したり、困難にぶち当たるのが必ずあると思います。挫折、困難、失敗を避けて通りたいとは、誰もが思うことですが、これらは自分を大きく成長させてくれるものです。乗り越えた時には、ちょっとしたことでへこたれない精神的強さや、他人に寄り添う優しさを手に入れることができるでしょう。

しかし、社会に出れば、高校までと違い、理不尽なことを経験したり、自分の力ではどうしようもできないこと、報われないこともあると思います。自分ではどうしようもできない苦しい時には誰かを頼ることを忘れないでください。

さて、いま世界を見渡すと、自分の国の利益を優先した戦争が行われ、多くの人の命が失われています。同じ時代に起こっているとは思えない悲惨な状況の映像が報道されています。また、私たちの身の回りでも、人には厳しく自分には甘い、権利ばかり主張し義務を果たそうとしない、そんな話を耳にすることがあります。しかし、こういう考え方や生き方では、社会での成功や幸せな人生にはつながらない、と稲盛さんは考えています。彼の信念である人生で一番大事なもう一つのこと、「人間は「自分がよくなりたい」という思いを本能として持っているが、皆を幸せにしてあげたいということを強く自分に意識する」ことを心がけてください。

「どんな環境であっても一生懸命に生きる、皆を幸せにしてあげたいということを強く意識する」という稲盛さんの言葉を卒業生の皆さんに贈ります。

(卒業生への思い出・・・)

今はただ、皆さんとの出会いに感謝しています。ありがとう。

ご来賓の皆様、並びに保護者の皆様方のご臨席に、重ねて感謝申し上げますとともに、今後とも、本校へのご支援・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

卒業生の皆さん、私たちは、皆さん一人一人の新しい世界での活躍を心から応援しています。皆さんの限りない前途が、健やかで、幸多からんことを祈念して式辞といたします。